

「論文を書く理由 ～そのヒ・ミ・ツ～」

司会：東京医科大学救急医学講座 行岡 哲男

演者：北海道大学大学院医学研究科救急医学分野 早川 峰司
慶應義塾大学医学部救急医学 鈴木 昌
大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター 小倉 裕司

なぜ論文を書くのか？誤解を恐れずに言えば、面白いからです。この「面白い」はexcitingと訳すべきで、これまでにない新たな自分と出会う体験がexcitingです。たとえ些細なことでも、世界で最初に見出し論文を書いた人としての自分と出会うことができます。最近、この論文執筆の面白さを味わう機会が医学会から薄れているのではないのでしょうか？これは論文を読む楽しさの衰えと関係があるように思います。教授や部長と称される人達がワクワク・ドキドキして論文を読むことが乏しいのもその原因の一つでしょう。

論文を読むとは、その著者が何故その課題を拾い（ヒ）、何を見出し（ミ）、そして何に繋ぐ（ツ）ことを目指したのか、このプロセスを読み解くことに他なりません。そこには知的な格闘の痕跡が見出され、これが論文を読むだごみ（ヒ・ミ・ツ）に他なりません。

論文を書くとは、日頃の診療の中で気になる事柄を知的探求のテーマとして拾う（ヒ）ことから始まります。そして、データを縦横に組み替えて新しい何事かを見出す（ミ）ことが必要です。さらに、この事実を将来の何に向かって繋げる（ツ）のか、これが分かる時に知的闘技を行う新しい自分に出会うことができます。そこには知的エネルギーだけでなく、偶然という恩恵や、時が熟すことも必要なこともあります。この面白さを伝えるのは学術団体の大きな使命だと思います。

そこで次世代を担う救急医学の研究者に論文を書くプロセスをご紹介頂きたくこのセッションを企画しました。参会者には、予めこれまでの主な論文（英文のみ）を形式にそって提出頂きました。これを題材に議論を進めたいと思います。